

浜松版 MaaS 構想の策定について（素案）

1 報告事項

浜松版 MaaS 構想について、令和3年1月25日から2月24日まで、パブリック・コメントを実施しますので、今般公表案について報告させていただきます。

2 資料

- ・浜松版 MaaS 構想（案）＜本書＞
- ・浜松版 MaaS 構想（案）＜解説版＞

3 構想の位置づけ

本市の最上位計画である浜松市総合計画に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となるものです。

4 目指す方向性等

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

必要な視点1 地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力を最大化します。

必要な視点2 とともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造します。

必要な視点3 しなやかに繋がる

利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかにつながる地域を構築します。

必要な視点4 市民起点でのまちづくり

コンパクトでメリハリのあるまちづくりとともに、デジタルテクノロジーは手段として捉え、高齢者子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。

5 計画策定スケジュール＜予定＞

パブリック・コメント	令和3年1月25日～令和3年2月24日
総務委員会報告	令和3年3月
モビリティサービス推進コンソーシアム報告	令和3年3月
市の考え方公表	令和3年3月
策定・公表	令和3年3月

浜松版 MaaS 構想(案)

に対するご意見をお待ちしています！

「パブリック・コメント制度」とは、市が計画や条例などを策定するときに、案の段階で市民の皆さんに公表し、ご意見、ご要望などを聴きながら最終的な案を決定する手続きのことをいいます。

浜松市では、平成15年4月から、この制度を導入しています。



1. 「浜松版 MaaS 構想 (案)」とは

「浜松版 MaaS 構想」は、本市の最上位計画である浜松市総合計画に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となるものです。

2. 案の公表期間及び意見募集期間

令和3年1月25日(月)～令和3年2月24日(水)

3. 案の公表先

デジタル・スマートシティ推進事業本部、市政情報室、区役所、協働センター、市民協働センター、中央図書館、パブコメ PR コーナー(市役所本館1階ロビー)、男女共同参画・文化芸術活動推進センター、福祉交流センター、多文化共生センターにて配布

浜松市ホームページ(<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>)に掲載
【トップページ→ご意見・お問い合わせ→パブリック・コメント制度】

4. 意見の提出方法

意見書には、**住所、氏名または団体名、電話番号を記入**して、次のいずれかの方法で提出してください。

(意見書の様式は特に問いませんが、参考様式を添付しています。なお、意見は浜松市ホームページ上にある意見入力フォームからも直接提出できます。)

①直接持参	デジタル・スマートシティ推進事業本部(地域情報センター3階)まで書面で提出
②郵便【はがき、封書】 (最終日の消印有効)	〒430-0929 浜松市中区中央1-12-7 デジタル・スマートシティ推進事業本部あて
③電子メール	dsc@city.hamamatsu.shizuoka.jp

5. 寄せられた意見の内容および市の考え方の公表

お寄せいただいたご意見の内容は、本市の考え方とあわせて、令和3年3月に公表します。公表先は案の公表先と同じです。

6. 問い合わせ先

デジタル・スマートシティ推進事業本部(TEL 053-457-2454)

下記の資料をご覧のうえ、ご意見をお寄せください

●パブリック・コメント実施案件の概要

●浜松版 MaaS 構想（案）＜本書＞

●浜松版 MaaS 構想（案）＜解説版＞

I. 構想策定の背景	P 1
II. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ	P 2
III. 構想に活かすべき本市の強み	P 3
IV. 構想の目指す方向性（基本理念）	P 4
V. MaaS 推進の考え方	P 5
VI. モビリティサービス	P 6～P 11
VII. 推進体制	P 12
VIII. ロードマップ	P 13
IX. 第一期（2020～2024年）の取組イメージ	P 14～P 16
X. 用語の解説	P 17～P 19

●意見提出様式（参考）

パブリック・コメント実施案件の概要

案件名	浜松版 MaaS 構想（案）
趣旨・目的	・浜松版 MaaS 構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がる MaaS サービスを生み出す際の指針となるもの。
策定（見直し）に至った背景・経緯	・本市は、人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。
立案した際の 実施機関の考え方 及び論点	・データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化や都市機能の高度化を目指す“デジタル・スマートシティ”政策を推進し、市民 QOL の向上や都市の最適化を図ることを目指している。
案のポイント （見直し事項など）	○目指す方向性（基本理念）と必要な視点 ・「ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっと輝く」を基本理念として掲げ、必要な視点を以下のとおり示した。 ①地域ごとの魅力の最大化 ②ともに支え、ともに創造 ③しなやかに繋がる ④市民起点でのまちづくり ○第一期（2020～2024 年）の取り組みイメージ ・重点分野の取組と基盤づくりを推進し、本市が日本版 MaaS を先導するエリアとなることを目指す。 重点分野「健康・医療・福祉」「生活インフラ」 「with/ポストコロナ」「防災・安全」 基盤づくり「エコシステム構築」「データ利活用」
関係法令・ 上位計画など	上位計画：浜松市総合計画 関連計画：浜松市都市計画マスタープラン、浜松市立地適正化計画、浜松市総合交通計画、浜松市地域公共交通網形成計画
計画・条例等の 策定スケジュール （予定）	案の公表、意見募集開始 令和3年1月25日 意見募集終了 令和3年2月24日 市の考え方公表時期 令和3年3月 実施時期または施行時期 令和3年4月1日予定

浜松版MaaS構想（案）

背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけています。移動環境の整備は重要施策の一つであり「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられています。また国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められています。
- 本市は、人口減少・少子高齢化を背景に、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面しています。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められています。
- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ活用等でMaaSの取組との連携が求められています。
- Withコロナ/ポストコロナ時代の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められています。

活かすべき本市の強み

- 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- 市民・企業のやらまいか精神や共助の心
- ものづくり力（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積／スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市）

目指す方向性（基本理念）

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、ヒトの移動に留まらない価値を創出し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力を最大化します。

必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

必要な視点3：しなやかに繋がる

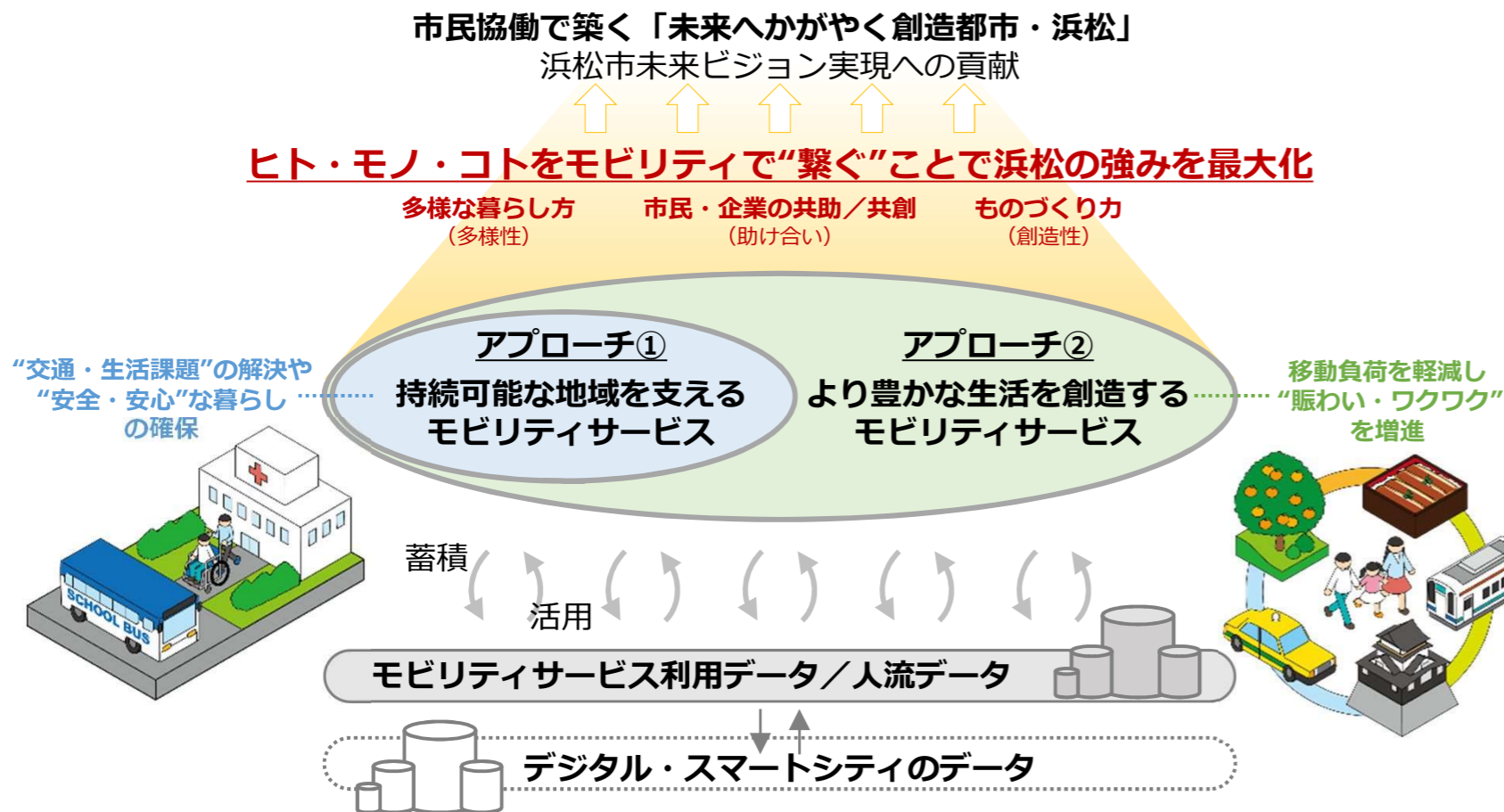
利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します

必要な視点4：市民起点でのまちづくり

コンパクトでメリハリのあるまちづくりとともに、デジタルテクノロジーは手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。

MaaS推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、未来へのチャレンジ（アプローチ②）を組合せて取り組みながら多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



推進体制：

市民・企業の主体的参加で創発性の高いエコシステムを形成していきます。



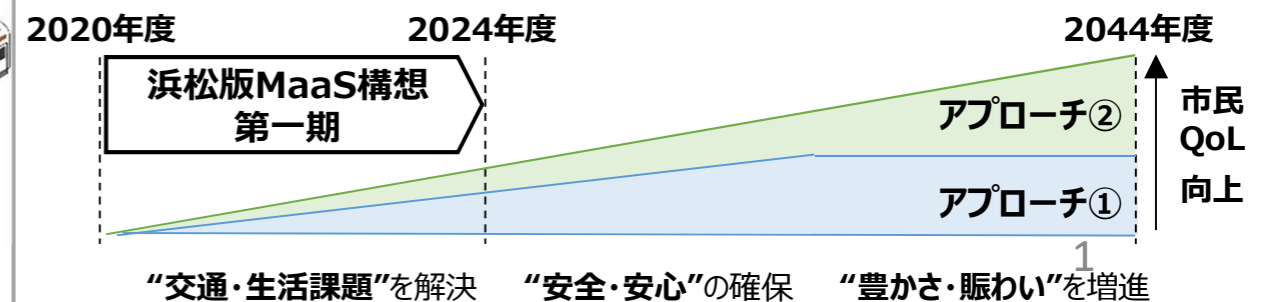
中核となる「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。



ロードマップ：

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、交通・生活課題解決から着手し、モビリティとサービスの連携や官民共創の取組を推進し、浜松版MaaSの基礎固めを行います。



浜松版MaaS構想（案）

考えられるサービスのイメージ

“国土縮図型都市”と呼ばれる本市の多様なフィールドを活用し、市の全域でイノベーションを起こしていきます。

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負担を軽減し
“賑わい・ワクワク”
を増進

中山間地域をはじめ、
公共交通の
維持が難しい地域
での活用を検討。
自動運転車の活用

買物難民や
宅配業の人手不足
等への対応として、支えあい
による小売や物流の促進。
**移動販売や
配送の地域内連携**

**移動診療の推進
（医療MaaS）**
車を活用した遠隔診療や
遠隔服薬指導、薬剤
配送の推進。

遊休モビリティ資産の活用
介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、
昼間の遊休車両等の活用の促進。

**自家用車を使った乗り合いの促進
（自家用有償旅客運送等）**
公共交通の維持が困難な地域を
中心に、住民が自家用車を用いて、
住民を有償運送する共助型のサービスの
導入を促進。

**異なる交通手段の連携や
一体的運用・運営**
異なる交通手段の連携や
デマンド型の運行等を活用し、
移動の効率化を促進。

**移動や人流データの
活用・見える化
（公共交通の効率化、アプリ活用など）**
MaaSサービスの利用データや、ビーコン
等で収集された人流データ等を
活用し、運行の最適化や
新たなサービス創出を促進。

浜松市
MAP

**多拠点居住用サブスクMaaS
（関係人口向けの移動環境）**
「多拠点生活者」向けにサブスクで利用できる
移動手段の提供など、多拠点居住者
誘致に向けた環境整備。

観光資源との連携
モビリティで観光資源を
繋いだり、観光施設や
アクティビティとセットにしたチケット
の販売等で浜松の魅力を最大化。

浜松テレワークパーク構想
クルマをオフィス空間として活用し、
駐車場等の空きスペースを利用
することで、景観や環境を
自由に選べるサービスを
官民共創で構築。

**商業施設等
との連携**
クーポンの配信やサイネージへのリコメンド情報の表示
など、商業施設等との連携により、まちを活性化。

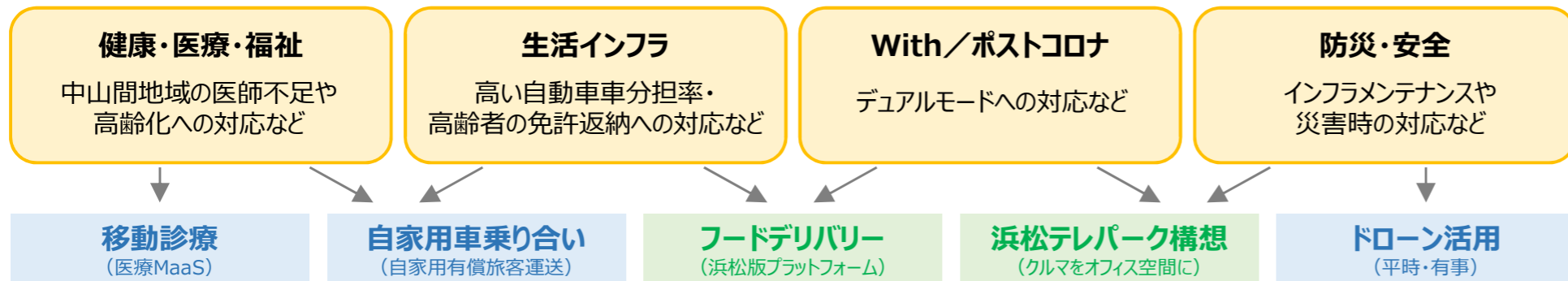
**フードデリバリー
プラットフォーム構築**
浜松発の地方版フードデリバリー
プラットフォームを官民連携で構築。

イベント等との連携
食、音楽、演劇等、場所を問わず
車で提供可能な様々なエンターテインメントを組み合わせ、
浜松の豊かな自然を活用した
イベントを提供。

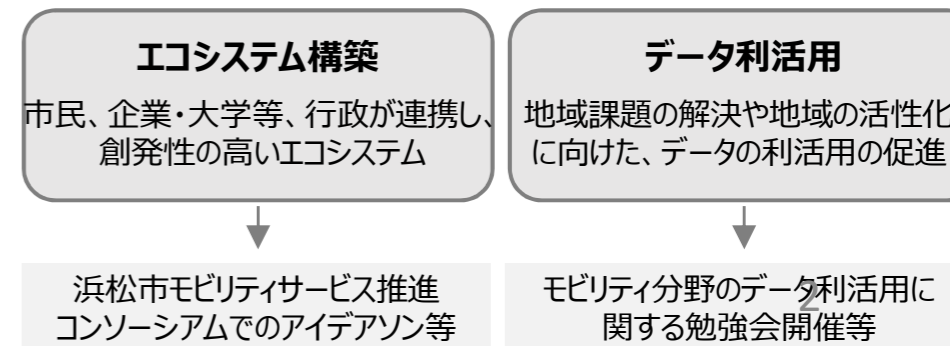
第一期（2020年度～2024年度）の取組

重点分野の取組と基盤づくりを推進し、本市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。

重点分野



基盤づくり



浜松版MaaS構想（案）

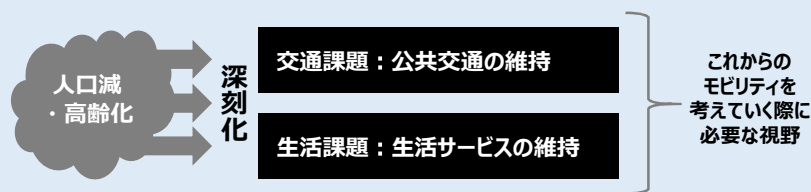
Digital Smart City HAMAMATSU



持続可能なまちづくりや生活サービスの維持・質の向上に向けて
交通領域にとどまらず、市民の生活全般に関わるテーマとして捉えた“新たな発想のMaaS (*①)”が求められています。

浜松市の現状と課題

- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティ (*②) の連携による持続可能なまちづくりが求められている。



- 本市は「デジタルファースト宣言 (*③)」のもとデジタル・スマートシティ (*④) の取組を始動。分野間連携による市民QoL (*⑤) 向上や都市の最適化 (*⑥) に向けMaaSの取組との連携が求められている。



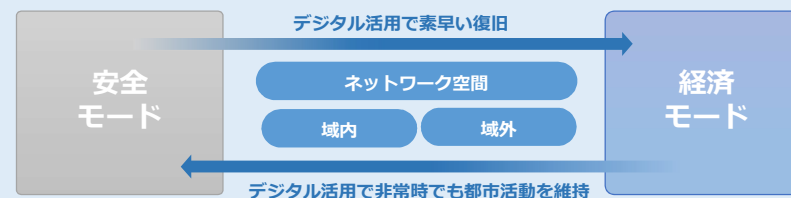
関連動向

- 国は、骨太の方針 (*⑦) で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備を推進することとしている。そうした中、**移動環境の整備は重要施策の一つ**であり「**自家用有償旅客運送 (*⑧) 制度の創設**」や「**日本版MaaSの推進**」等の取組が**成長戦略 (*⑨)**に位置付けられている。また、国際社会における環境負荷低減の要請への対応も求められている。

日本版MaaSの推進 (成長戦略フォローアップ)

- ① 地域における移動手段の維持・活性化
- ② モビリティと物流・サービスとの融合
(自家用有償旅客運送の円滑な実施…等)
- ③ 新しいまちづくりとモビリティ
- ④ データ連携の加速

- 「Withコロナ/ポストコロナ時代 (*⑩)」の「**ニューノーマル (*⑪)**」に対応した新たな環境整備の一つである「**デュアルモード社会 (*⑫)**」の構築も求められている。



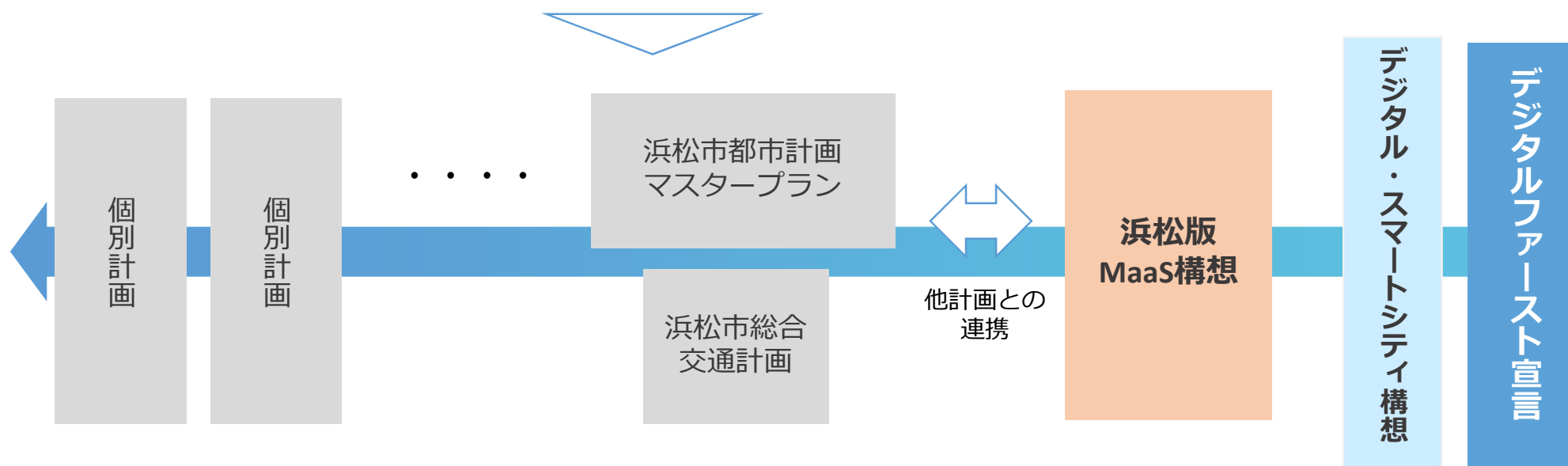
モビリティと各種サービスの連携により、持続可能なまちづくりを推進するにあたり、その指針として「浜松版MaaS構想」を策定して、市民のみならずと共有するとともに交通領域にとどまらない様々なプレイヤー (*⑬) による共創を促していきます。

Ⅱ. 構想策定の趣旨／構想の位置づけ

本構想は、市民、企業・大学等、行政が主体的に参加し、地域課題解決や地域活性化に繋がるサービスを生み出す際の指針となるものです。

本構想は、本市の最上位計画である総合計画^(*14)に基づく個別計画であるとともに、「浜松市都市計画マスタープラン」「浜松市総合交通計画」「浜松市デジタル・スマートシティ構想」等の他計画と連携しながら、交通課題に限らず多様な都市課題解決の取組の指針となります。

浜松市総合計画
基本構想：浜松市未来ビジョン
2014年12月策定 計画期間：2015年度～2044年度
基本計画：浜松市未来ビジョン第1次推進プラン
2014年12月策定 計画期間：2015年度～2024年度



構想策定にあたっては、浜松市の特徴や強みを活かす視点を持ち、
浜松市ならではのMaaSを推進していきます。

強み① (多様性)

多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境

- 都市部・郊外・中山間地域と、様々な暮らし方・楽しみ方ができる多様な環境（国土縮図型都市）
- 新幹線や高速道路等、近隣都市圏とのアクセスが便利な交通環境



強み② (助け合い)

市民・企業の“やらまいか精神”や共助の心

- 「やってみよう」「やってやろうじゃないか」と、新しいことに果敢にチャレンジする精神、そして浜松を誇りに思い、互いに助け合う心など、オープンなイノベーション (*15) の土壌



強み③ (創造性)

ものづくり力

- 世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカーが集積しており、また同時にスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市 (*16) でもある大企業とスタートアップ (*17) の共創・創発が生まれやすい環境



浜松市のヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことによって、持続可能でより豊かな都市の実現を目指します。

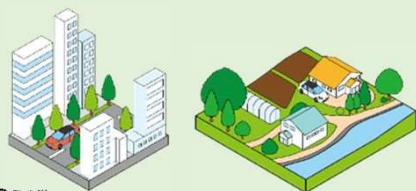
ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と浜松の暮らしはもっと輝く

人口減少・少子高齢化で限られた資源（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。

さらに、ヒトの移動に留まらない価値を創出し、
浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

必要な視点1 地域ごとの魅力の最大化

- 都市部から中山間地まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の魅力最大化します。



例えば…

- ◆ 豊かな文化を享受する都市の暮らし
- ◆ 自然に囲まれた暮らし
- ◆ 東京や大阪等の大都市との二拠点生活

必要な視点2 ともに支え、ともに創造

- 人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。



例えば…

- ◆ 自家用有償旅客など、公共交通事業者だけに依存しすぎない市民も参加しての移動環境づくり
- ◆ アイデアソン等、みんなで考える機会の設置

必要な視点3 しなやかに繋がる

- 利用者目線のシームレス (*18) なサービスや自然災害・パンデミック (*19) への備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。



例えば…

- ◆ ヒトだけでなく、モノ・コトの移動も含み最適化
- ◆ 様々な状況に応じて、ヒト、モノ、コトの移動が柔軟に繋がるサービスの設計

必要な視点4 市民起点でのまちづくり

- コンパクトでメリハリのあるまちづくりとともに、デジタルテクノロジー (*20) は手段として捉え、高齢者や子育て世代をはじめ多様な市民の生活ニーズからサービスを発想します。



例えば…

- ◆ 技術ありきではなく、市民の生活ニーズから発想（デジタルテクノロジーはあくまで手段）

『喫緊の課題への対応』と『未来へのチャレンジ』を組合せて取り組みながら
多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。



市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献



ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

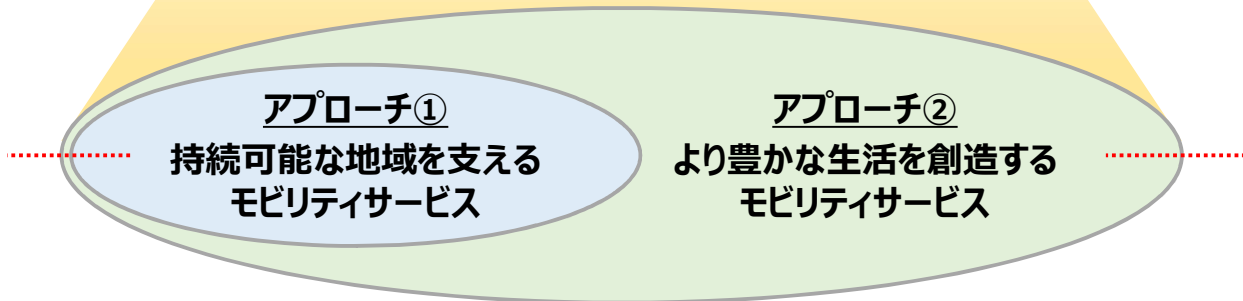
多様な暮らし方
(多様性)

市民・企業の共助／共創
(助け合い)

ものづくり力
(創造性)

(喫緊の課題への対応)

“交通・生活課題”
の解決や
“安全・安心”な
暮らしの確保



(未来へのチャレンジ)

移動負荷
を軽減し
“賑わい・ワクワク”
を増進

蓄積

活用

モビリティサービス利用データ／人流データ (*①)



デジタル・スマートシティのデータ



デジタル・スマートシティ
の取組と連携し、利活
用推進

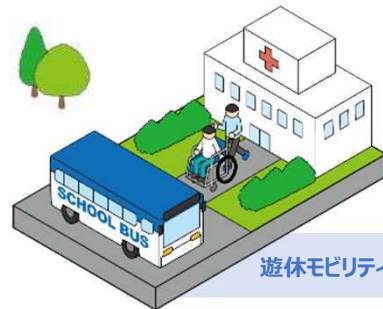
VI. モビリティサービス (取り組み例)

“交通・生活課題”の解決や、
“安全・安心”な暮らしの確保

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し
“賑わい・ワクワク”を増進



移動診療の推進
(医療MaaS)



自家用車を使った乗り合いの促進
(自家用有償旅客運送等)



異なる交通手段の連携や
一体的運用・運営



移動や人流データの
活用・見える化
(公共交通の効率化、アプリ活用など)



デュアルモード社会づくりへの貢献

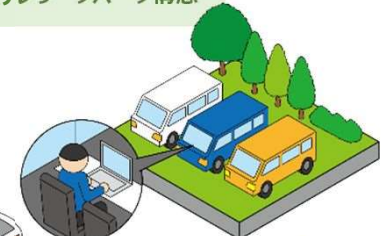
浜松市
MAP

多拠点居住用サブスクMaaS
(関係人口向けの移動環境)



自動運転車の活用

浜松テレワークパーク構想



観光資源との連携



フードデリバリー
プラットフォーム構築



商業施設等との連携



イベント等との連携



VI-1-1. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

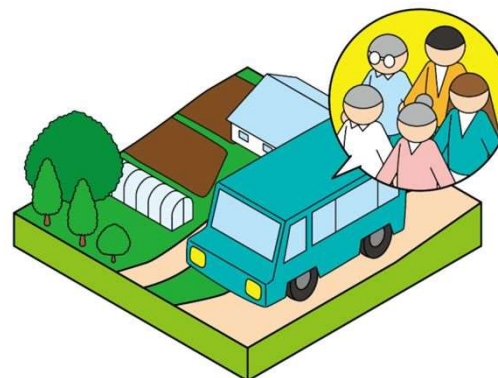
アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保



移動診療の推進 (医療MaaS (* 22))

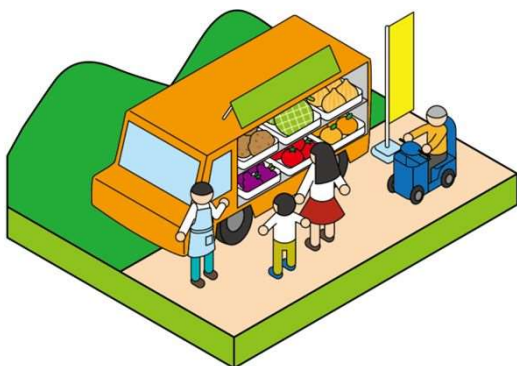
車を活用した遠隔診療や遠隔服薬指導、薬剤配送の推進



自家用車を使った 乗り合いの促進

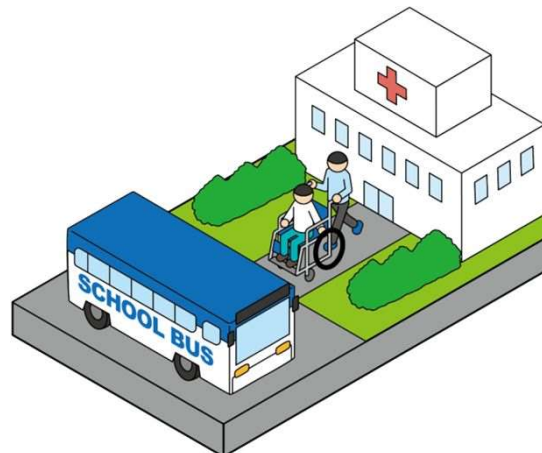
(自家用有償旅客運送等)

公共交通の維持が困難な地域を中心に、住民が自家用車を用いて、有償運送する共助型のサービスの導入を促進



移動販売や 配送の地域内連携

買物難民や宅配業の人手不足等への対応として、支えあいによる小売や物流の促進



遊休モビリティ 資産の活用

介護や福祉施設の送迎車両やスクールバスなど、昼間の遊休車両等の活用の促進

VI-1-2. 持続可能な地域を支えるモビリティサービス（取り組み例）

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

“交通・生活課題”の解決や、“安全・安心”な暮らしの確保



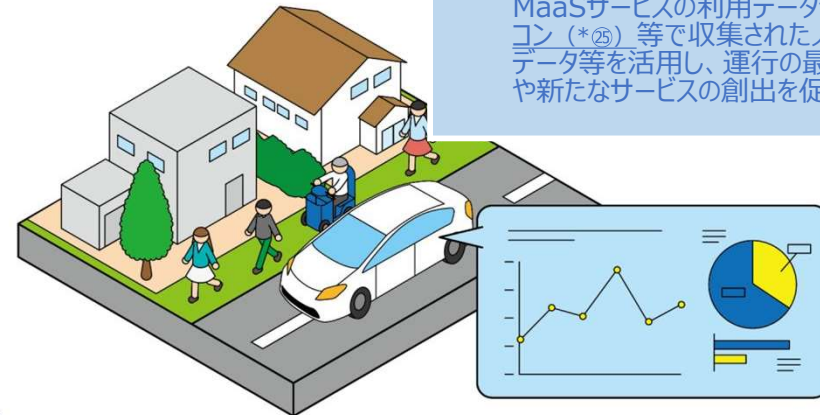
**異なる交通手段の連携や
一体的運用・運営**

異なる交通手段の連携やデマンド型
(*23) の運行等を活用し、移動の効
率化を促進

**移動や人流データの
活用・見える化**

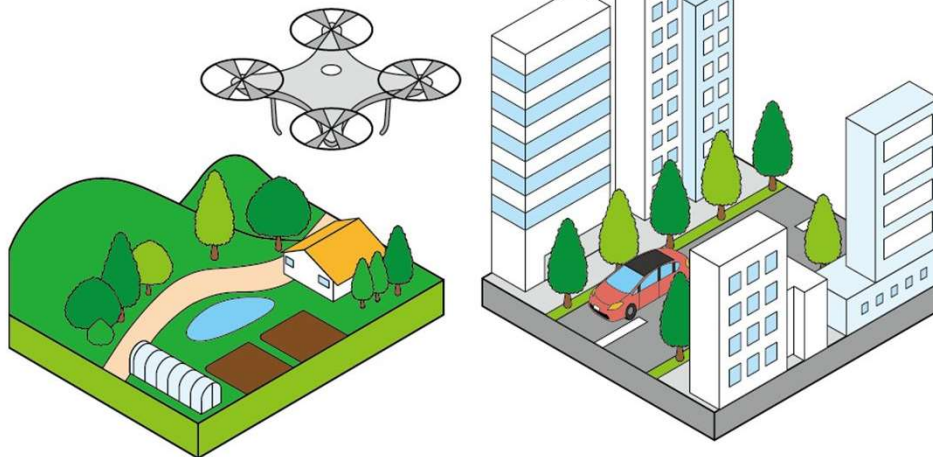
(公共交通の効率化、アプリ(*24)活用など)

MaaSサービスの利用データや、ビー
コン(*25)等で収集された人流
データ等を活用し、運行の最適化
や新たなサービスの創出を促進



デュアルモード社会づくりへの貢献

自然災害やパンデミック発生など、移動が制限される際のドローン
等の活用の検討



VI-2-1. より豊かな生活を創造するモビリティサービス（取り組み例）

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



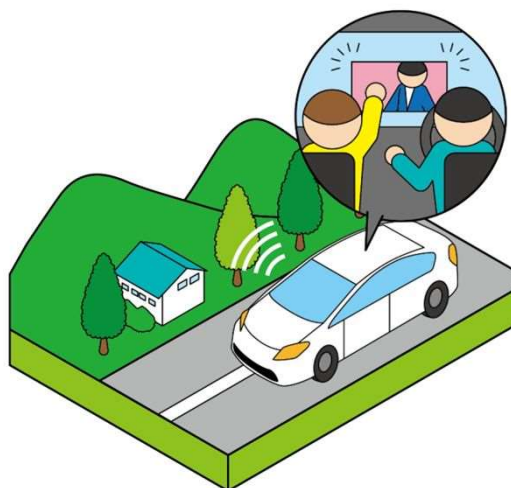
フードデリバリー プラットフォーム (*26) 構築

浜松発の地方版、フードデリバリープ
ラットフォームを官民連携で構築



浜松テレワークパーク構想

クルマをオフィス空間として活用し、駐車場等の
空きスペースを利用することで、景観や環境を自
由に選べるサービスを官民共創で構築



自動運転車の活用

中山間地域をはじめ、公共交
通の維持が難しい地域での活
用を検討



観光資源との連携

モビリティで観光資源を繋いだり、
観光施設やアクティビティ (*27) と
セットにしたチケットの販売等で浜
松の魅力を最大化

アプローチ①

持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②

より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負荷を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進



商業施設等との連携

クーポンの配信やサイネージ（*⑳）へのリコメンド情報（*㉑）の表示など、商業施設等との連携により、まちを活性化



多拠点居住（*㉒）用 サブスク（*㉓）MaaS （関係人口（*㉔）向けの移動環境）

サブスクで利用できる移動手段の提供など、多拠点居住者誘致に向けた環境整備

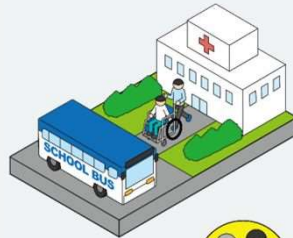


イベント等との連携

食、音楽、演劇等、場所を問わず車で提供可能な様々なエンターテインメントを組み合わせ、浜松の豊かな自然を活用したイベントを提供

地域の課題解決にデータを活用し、 持続可能で豊かな地域を目指す。

■ 地域交通の効率化・生活インフラの維持



<活用イメージ>

- 自家用有償・乗り合いサービス
- バスルートの最適化
- 移動診療・移動販売



<データ例>

- 自動車GPS (* 33) /コネクテッド (* 34)
- モノ・サービス移動ログ (* 35)

■ 渋滞や事故軽減・インフラメンテナンス



<活用イメージ>

- 渋滞情報の共有や軽減対策
- 交通事故の軽減対策
- 道路等のモニタリング

<データ例>

- 市民GPSログ
- 自動車GPS/コネクテッド
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 公共交通ダイヤ/事故情報
- 車載カメラによる道路情報



■ 地域活性化

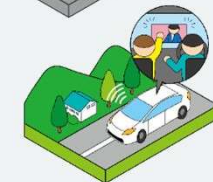


<活用イメージ>

- 広告/クーポン配布
- 個々人に最適化された商品提供
- 移動を含む観光パッケージ

<データ例>

- 市民GPSログ
- バス・タクシーGPS/ビーコン
- 観光地・周辺施設情報



市民、企業・大学等、行政が役割を持ち、それぞれが主体的に参加する創発性の高いエコシステム（*36）を形成。
 エコシステムの活動を通じて、地域課題解決・地域活性化に資するサービスやソリューション（*37）を生み出していきます。

持続可能なまちづくりの主役として市民自らが役割を担い、企業や行政と共に新たな取組を考え、その担い手となっていく。

エコシステムに積極的に参加して他社や市民との共創により新たな取組を創出。自社事業として持続的に運営を担う。



共助・共創のコーディネータ役。企業や市民が参加するエコシステムを運営し、新たな取組の創出を支援する。

「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」を中核とした、エコシステムの形成

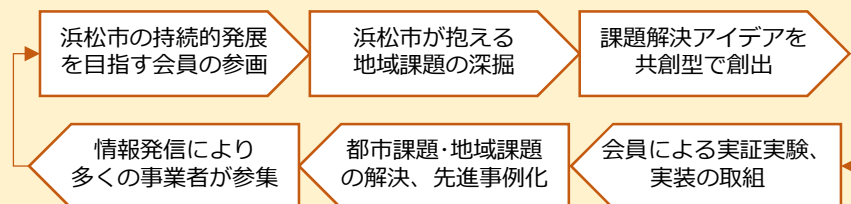


「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」は、モビリティサービスの観点から浜松市の持続可能な発展を目指して、令和2年4月に設立。官民が連携し、これからの浜松市に必要なモビリティサービスを生み出すプロジェクトを支援し、会員同士の意識共有や新たな繋がりを創出しています。

「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創発性の高いエコシステムを形成しています。

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム

浜松市の新しいモビリティサービスを考えるアイデアソン（*38）など、会員主導のプロジェクト創出支援を実施。



※市内のプロジェクト例

浜松市デリバリープラットフォーム

コロナ禍で影響を受けた飲食店を支援するために、官民が連携して、飲食店・消費者・宅配事業者などをオンラインで結ぶデリバリープラットフォームを形成。

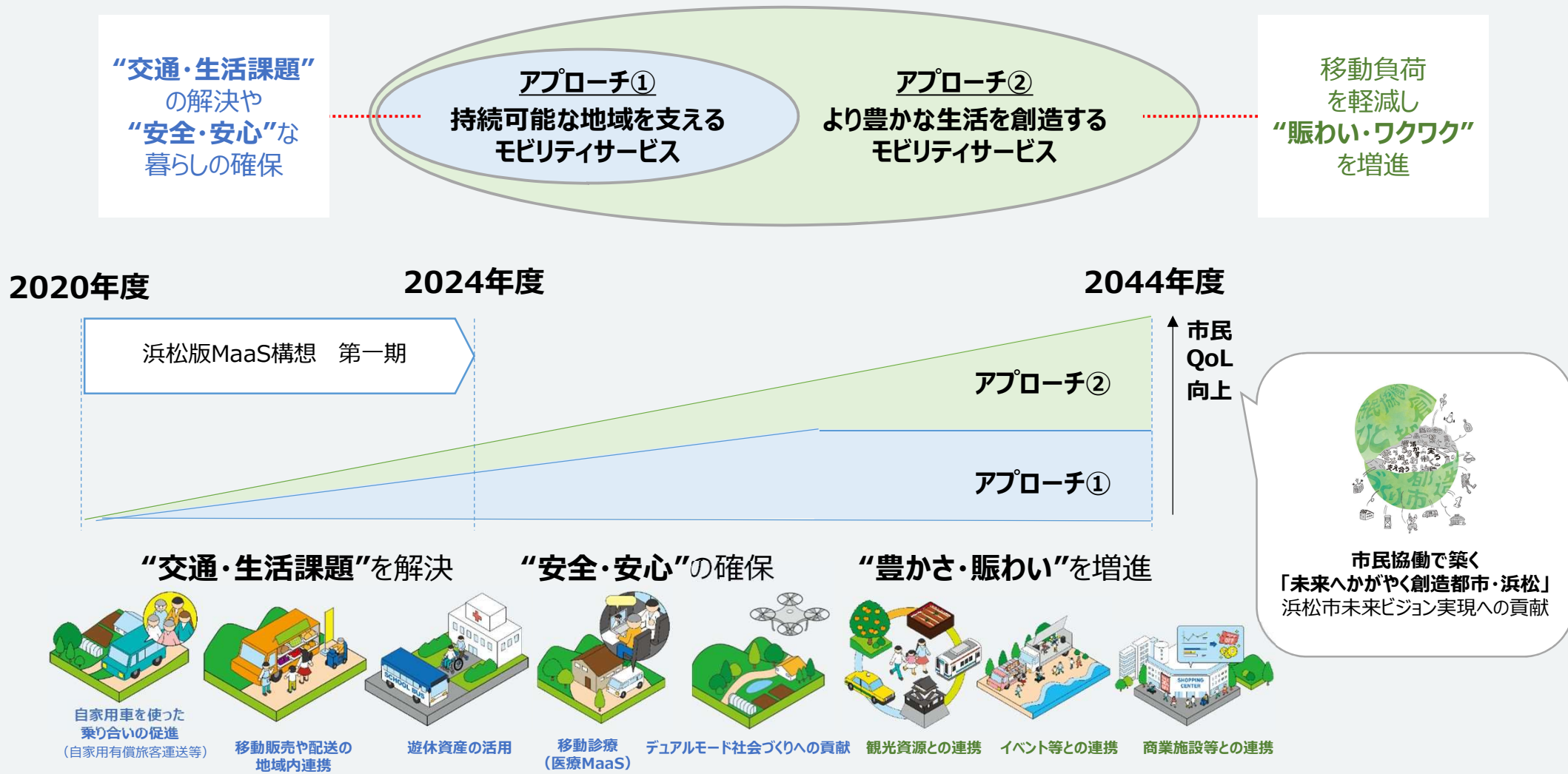


浜松テレワークパーク構想

車や駐車場を活用することでより良いテレワーク（*39）環境を作り、浜松市を挙げてテレワークを促進するための官民連携の構想。

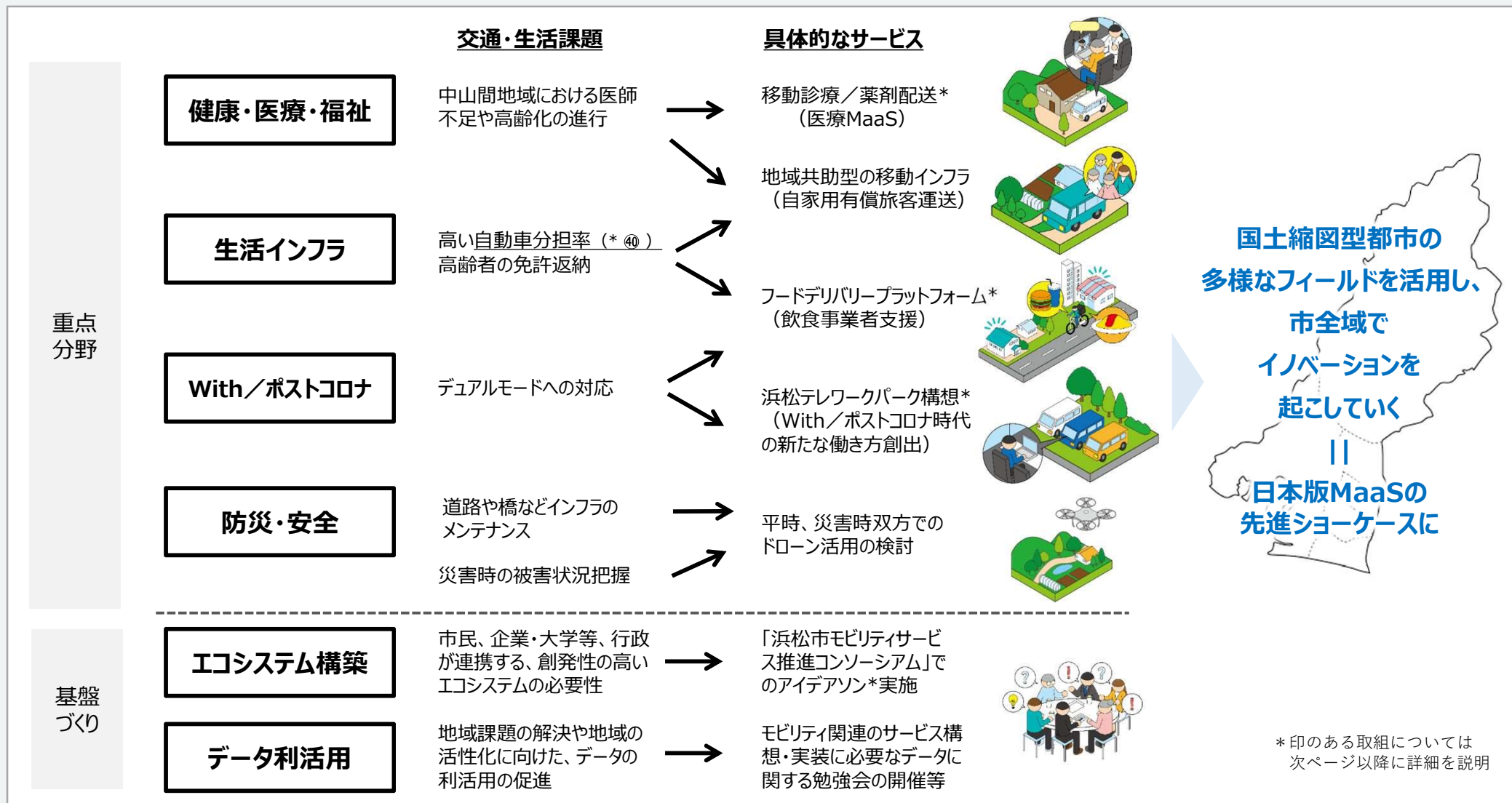


2020年度から2024年度の5年間で浜松版MaaS構想の第一期と位置付け、
交通・生活課題の解決から着手して、モビリティとサービスの連携やデータ利活用へと徐々に拡大。
中期的に、“安全・安心”の確保や“豊かさ・賑わい”の増進を図り、市民QOL向上、「浜松市未来ビジョン」の実現を目指します。



IX. 第一期（2020年度～2024年度）の取り組みイメージ

構想第一期は、官民連携による創発性の高いエコシステムづくりや、データ利活用に関する研究等、
MaaS構想の基盤づくりに取り組むとともに
重点分野として「健康・医療・福祉」「生活インフラ」「with/ポストコロナ」「防災・安全」を設定し
 国土縮図型都市である浜松市の多様なフィールドを活用して、本市全域でイノベーションを推進。
 これらの取組を通じて、浜松市が日本版MaaSを先導するエリアとなることを目指します。



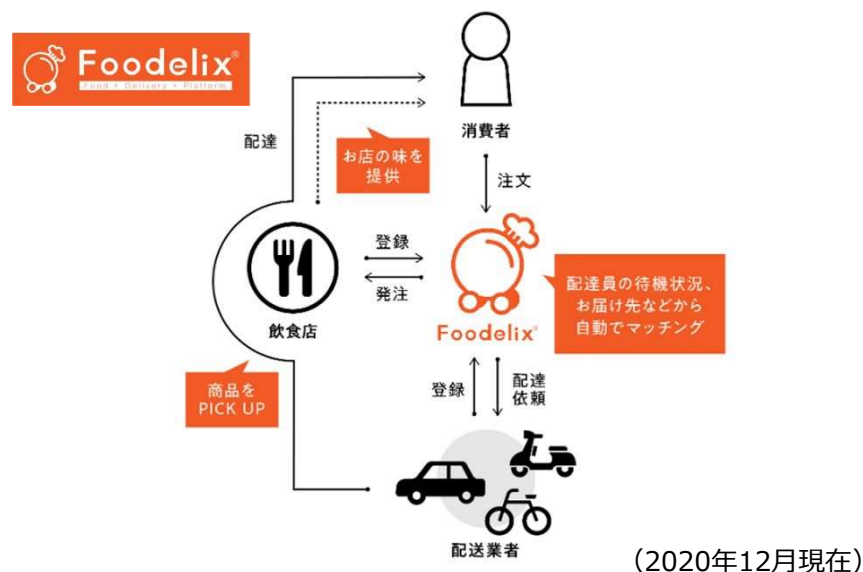
*印のある取組については次ページ以降に詳細を説明

フードデリバリープラットフォーム

浜松市の地域特性に合わせた新しいデリバリー&テイクアウトプラットフォーム「Foodelix」の構築。

コロナ禍でテイクアウトニーズが増える一方、決済・配送エリアも異なる事業者単位でサービスを行っている為、利用者としては使いづらいという課題と、デリバリーサービスを利用したい事業者のノウハウ不足という課題を解決する為に、注文・決済・配送までの一元的に管理できるデリバリー & テイクアウトプラットフォームを構築。

(株)こころ、(株)日本シャルフ、(株)サンロフト、浜松市 4者で立ち上げ、2020年10月から運用を開始しています。



春野医療MaaSプロジェクト

医療資源の乏しい中山間地域で、「医療を届ける」モデルの構築に向けた実証実験を天竜区春野町で実施。

天竜区は、高齢化が進行し、マイカー依存度が高く、今後、高齢者が免許返納等により自家用車での移動が困難になることが懸念されます。地域交通等の衰退による通院困難、地域の医療課題（医師不足等）により、将来適切な医療サービスの継続が困難になる可能性があるため、中山間地域において通院困難な高齢者に「医療を届ける」モデルの構築を目指す実証実験を実施。

実証実験では、移動診療車を用いたオンライン診療を行い、オンライン診療を受診した患者に対して医師や薬剤師と連携してオンラインでの服薬指導やドローンなどを使った薬剤配送も行います。実験を通じて、それらの運用上の課題を検証していきます。



浜松テレワークパーク構想

駐車場をコワーキングスペース (* ㊴) として活用する事で浜松ならではの新たな働き方を提案。

コロナ禍で企業に求められたテレワークへの取り組みによって起きた「仕事ができる個室の確保」等の課題を解決するために、駐車場をコワーキングスペースとして活用する事で新たな働き方を提案する「浜松テレワークパーク実現委員会」を、We will Accounting Associates(株)、スズキ(株)、(株)東海理化、浜松市の4者で設立。

多拠点居住や関係人口拡大に貢献するサービスとして、2021年4月度以降の事業化を目指し、2020年11月より移動オフィスとコワーキングスペースの実証実験を開始しました。



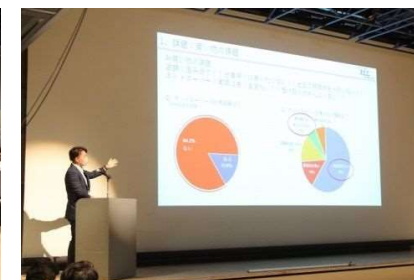
(2020年12月現在)

アイデアソン

新しいサービスのアイデア創出に向けて、モビリティコンソーシアム参加企業同士での「意識共有」、「関係構築」、「価値創造」を促進する事を目的とした、企業共創型サービス創発プログラムを実施。

浜松市の課題視点で、それぞれの参加企業がサービスを創造していく事をサポートできる様に、MaaS、スマートシティ最新事例のインプット、浜松市の課題の深堀、共創型のサービスアイデア発想等のプログラムを用意。初年度は10社が発表を行い、浜松市長始め、コンソーシアム幹事企業からの講評など、各アイデアのサービス具体化に向けたサポートに貢献する施策となりました。

今後も本プログラムを定期的実施していきながら、浜松市民の生活の質を向上させる新しいモビリティサービスアイデア創出とプロジェクト具現化のきっかけの場として推進していく予定です。



(2020年12月現在)

- 1. MaaS**
マース
「Mobility as a Service」の略。複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ検索・予約・決済を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる
- 2. モビリティ**
乗り物等、人の移動に関わることやモノ
- 3. デジタルファースト宣言**
令和元年10月31日に発出。「データ活用や地域課題解決を通じたイノベーションの活性化」「デジタル化による生産性向上」「デジタル技術やデータの活用による市民生活の快適化」を目指すために「都市づくり」「市民サービス」「自治体運営」にデジタルファーストで取り組むことを宣言
- 4. デジタル・スマートシティ**
「デジタルファースト宣言」の3つの戦略分野の1つである「都市づくり」における政策。データや先端技術を最大限に活かし、産業の活性化やインフラの効率的な維持管理など都市機能の高度化を目指す
- 5. 市民QOL**
キューオーエル
QOLは「Quality of Life」の略。人々の幸福感・効用など、社会のゆたかさや生活の質のこと
- 6. 都市の最適化**
都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、効果的・効率的な都市計画、都市整備、都市管理・運営を実現すること。
- 7. 骨太の方針**
「経済財政運営と改革の基本方針」国の経済対策等の基本骨格を示したもの
- 8. 自家用有償旅客運送**
バス、タクシー等が運行されていない過疎地域などで、登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて住民を有償で運送すること
- 9. 成長戦略**
「投資の促進」「人材の活躍強化」「新たな市場の創出」「世界経済とのさらなる統合」の4つの視点をベースにして、規制緩和等によって、民間企業や個人が真の実力を発揮するための方策をまとめたもの。令和2年7月17日に「成長戦略実行計画」「成長戦略フォローアップ」が閣議決定された。
- 10. Withコロナ/ポストコロナ時代**
ウィズ
新型コロナウイルスの流行に即した今とこれからの時代を指す
- 11. ニューノーマル**
新型コロナウイルス感染症の流行を経て移行する人々の行動・意識・価値観の新たな常態・常識のこと
- 12. デュアルモード社会**
経済効率を重視する「経済モード」と、国民の健康と安全とを最優先にする「安全モード」の2つのモードを新型コロナウイルス感染症の状況に応じて適宜切り替える社会。
- 13. プレイヤー**
サービスを提供または享受する企業、団体、個人を指す
- 14. 総合計画**
浜松市の最上位計画。30年後（1世代先）の理想の姿を示した「浜松市未来ビジョン（基本構想）」と、10年間の総合的な政策を定めた「第1次推進プラン（基本計画）」の2章で構成される。
- 15. イノベーション**
これまでにない新しいサービスや製品などを生み出すこと
- 16. スタートアップ・エコシステム
グローバル拠点都市**
内閣府が経済面や技術面など様々な支援を行うことで世界と同等に戦える日本企業の創出を目指し、全国で4地域を選定
- 17. スタートアップ**
短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動きや企業のこと
- 18. シームレス**
機能やサービスがよく連携していて利用者にとって快適であるということ

19. パンデミック	世界的大流行のこと
20. デジタルテクノロジー	情報技術のこと
21. 人流データ	いつ、どこに、どれくらい人がいるかを示すデータ
22. 医療 ^{マース} MaaS	モビリティとデジタルの力によって、医師不足や高齢化等従来の医療課題を解決する新しい医療サービス
23. デマンド型	利用者の事前予約に応じる形で運行経路や運航スケジュールをそれに合わせて運行する公共交通のこと
24. アプリ	「アプリケーション」の略。パソコンや携帯電話上で使える様々なソフトウェアのこと
25. ビーコン	近距離でデジタル機器のデータ通信をやり取りする無線通信技術「Bluetooth」を使って、情報を発信する端末や通信方法
26. フードデリバリープラットフォーム	飲食のデリバリー、テイクアウトにおいて発注・決済から配達依頼、配送までを一元管理する仕組み
27. アクティビティ	旅行先での体を使った様々な遊びのこと
28. 多拠点居住	都市部や地方部に複数の拠点をもち、定期的に地方部でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルの1つ
29. サブスク	「サブスクリプションサービス」の略。一定期間の利用権を定額性で支払う方式のサービス
30. 関係人口	特定の地域と多様に関わる人々を指す言葉
31. サイネージ	表示と通信にデジタル技術を活用して平面ディスプレイやプロジェクタ等によって映像や文字情報を表示するモノ
32. リコメンド情報	プロフィールや行動履歴から興味・関心がありそうなモノ・コトを予測した情報
33. GPS ^{ジーピーエス}	地球上の現在位置を、人工衛星からの電波で測り知る装置
34. コネクテッド	インターネットに常時接続されたモノ
35. 移動ログ	特定のヒトやモノの移動履歴
36. エコシステム	複数の企業や団体がパートナーシップを組み、それぞれの技術や強みを生かしながら、業種・業界の垣根を越えて共存共栄する仕組み、ビジネス上の生態系
37. ソリューション	抱えている課題を解決することや、そのために提供されるシステム
38. アイデアソン	「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、アイデアの創出を目的としたイベントを指す

39. テレワーク

情報通信技術（ICT = Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと

40. 自動車分担率

自動車、バス、鉄道、自転車、徒歩などの移動手段において、自動車がどれだけの割合で使われているかという割合を示す数値

41. コワーキングスペース

異なる職業や仕事を持った人たちが同じ場に集まり、共有している作業場

パブリック・コメント意見提出様式

～あなたのご意見をお待ちしています～

ご住所 (所在地)	
お名前 (法人名・団体名)	
電話番号	
案の名称	浜松版 MaaS 構想 (案)
意見募集期間	令和3年1月25日(月)～令和3年2月24日(水)
意見欄	

- ・この様式は参考です。任意の様式でも提出していただくことができますが、その場合でも、上記と同様の内容について記入をお願いします。
- ・この様式は、市ホームページからもダウンロードできます。

【提出先】 デジタル・スマートシティ推進事業本部あて
住所 : 〒430-0929 浜松市中区中央1-12-7
E-mail : dsc@city.hamamatsu.shizuoka.jp

～どうやって意見を書いたらいいの？～

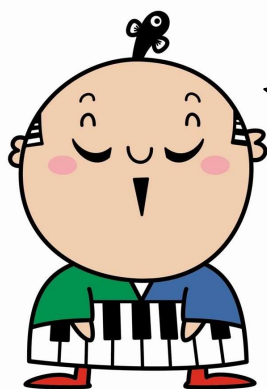
「もっとこうしたらどうか」「もっとこうしてほしい」など、計画や条例の案を見て思ったこと、感じたことを箇条書きや文章にまとめてください。

どうやって書いたらいいかわからない場合には、以下の書き方例を参考にしてみてください。

<書き方例>

- ページにある「〇〇〇〇」という言葉は分かりにくいので、「□□□□」に変えてはどうでしょうか。
- ページの「△△△△」については、「■■■■■■」という内容を追加したほうがよい。その理由は……だからである。
- ページに書いてある目標件数ですが、「〇〇件」では少ないので、「□□件」にすべきだと思う。
- ページの「△△△△」という文章は具体的にどういう意味なのか。また、専門用語が多く使われているので、計画の中に用語解説をつけるべき。

出世大名
家康くん



皆さんからの
ご意見を
お待ちしております
おるのじゃ！

©浜松市